



令和5年度

太田小だより 4月号

【学校教育目標】

「自他を大切に主体的に学び、生きる力をはぐくむ児童の育成」
～やさしく かしこく たくましく みんなで伸び行く太田小～
○思いやりのある子 ○すすんで学ぶ子 ○たくましい子

さいたま市立太田小学校
令和5年4月10日（月）発行
全校児童数576人



住所 さいたま市岩槻区仲町 1-17-3
電話 048-756-0515
FAX 048-758-7487
メール ota-e@saitama-city.ed.jp
Web https://ota-e.saitama-city.ed.jp

太田小学校 新年度のスタートにあたり

校長 たなみ きよし 田波 巨士

明るい日差しが降り注ぎ、百花繚乱の春が巡ってまいりました。

新年度のスタートとなる本日、新入学児童85名を迎え、全校児童数576名（通級指導教室を含め22学級）で、令和5年度がスタートしました。保護者の皆様、お子様の御入学、御進級、誠にありがとうございます。

私はこの度、前任の千明 勉 校長の後任として、見沼区の島小学校から着任いたしました 田波 巨士（たなみ きよし）と申します。4月3日、初めて太田小学校の正門を通った際には、体育館前の桜の木から、花びらが美しく舞っており、図らずも私を含め緊張した面持ちで着任した職員を歓迎してくれているかのような様子でした。開校以来、子ども・保護者・地域の皆様に愛されている太田小学校のよき伝統と校風を受け継ぎ、さらに本校が発展できるよう、全力で教育活動に専念していこうと決意を心に留めた瞬間でもありました。

さて、私は自身の座右の銘として、「時に及んで当に勉励すべし、歳月ひとを待たず（ときにおよんでまさにべんれいすべし、さいげつひとをまたず）」という中国の陶淵明（とうえんめい）の漢詩の一節を胸に刻んでいます。この詩の解釈としては、「若い時間は二度と来ないし、一日に朝は二度もない。だからこそ、今という時を逃さずに勉強に励め」という意味が一般的だそうです。ただし、ここで「励む」とは、詩全体の文脈から“楽しむ”のことだとも言われています。そのためもともとは“その時その時に心ゆくまで大いに遊んで楽しむのが良い”というニュアンスが強い言葉でした。私は、仕事でも遊びでも「時間は限りがあるものであり、自分にとって、やりたいこと、やるべきことは、時機を逃さず、全力で取り組んでいこう」と置き換えて捉えています。

今は、新型コロナウイルスの感染症の拡大や多くの社会課題、国政情勢の不安定化に象徴されるような「予測困難な時代」です。私は、先行きが不透明なこの時代であっても、子どもたちには、「自分のやりたいこと、やるべきことを見つけ、一日一日を大切に、前向きに過ごしてほしい」と願っています。私は4月当初の職員会議で、子どもたち一人ひとりに真摯に向き合い、子どもの成長につながるかどうか、その意義について必ず考えて教育活動を実践するよう全教職員に話しました。教職員一同、これからの未来の創り手である子どもたちを育む教育の使命を強く認識し、よりよい教育活動を推進する所存です。

太田小学校では、学校教育目標を「自他を大切に主体的に学び、生きる力をはぐくむ児童の育成」としました。そして、目指す学校像を次のように掲げ、全教職員一丸となって教育活動に取り組んでまいります。

- 1 分かる授業を追求する「楽しい学校」
- 2 自他を大切に、感動する心を磨く「優しい学校」
- 3 進んで運動し、心も鍛える「元気な学校」
- 4 児童・保護者・地域の思いを大切にする「愛される学校」

保護者の皆様、地域の皆様におかれましては、引き続き御支援と御協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。